

2015年10月1日

研究課題名：白血球除去療法（LCAP）を施行した潰瘍性大腸炎患者の予後
およびその因子に関する多施設共同レトロスペクティブ観察研究

患者さま医療情報の研究利用について

現在、潰瘍性大腸炎の患者さまが白血球除去療法（LCAP）で寛解に至った場合、その予後については明らかになっておりません。

そこで、LCAPにより寛解に至った潰瘍性大腸炎の患者さまを対象に、その後1年間の再燃の有無とそのリスク因子、再燃した場合は改めて行った寛解導入療法を調査するため、消化器内科では、「白血球除去療法（LCAP）を施行した潰瘍性大腸炎患者の予後およびその因子に関する多施設共同レトロスペクティブ観察研究」を行うこととなりました。

調査対象となるのは2010年5月1日から2013年3月31日の間に潰瘍性大腸炎の症状により、入院または外来でLCAPを行い、寛解に至った患者さまです。

本研究で調査する項目は「LCAP後1年間の再燃の有無」「LCAP後1年間の投薬内容」「LCAP後再燃した場合はその後の再寛解導入療法」です。

尚、これらの情報を分析・保存する上で、全ての患者さまは匿名化され、その保護には十分配慮し、氏名や住所などは一切公表されることはありません。また、今回の研究で得られた結果は、学会や雑誌などで報告されることがありますが、個人の特定が可能な情報はすべて削除されます。

本研究は名古屋大学大学院医学研究科・医学部附属病院 生命倫理審査委員会の承認を得ております。本研究の調査対象に該当する患者さまで調査に同意されない方はお申し出ください。また、同意されない場合にも、それを理由に将来にわたって名古屋大学医学部附属病院における診療・治療において不利益を被ることはありません。本研究に関してご質問などがございましたら下記の連絡先までご連絡ください。

<連絡先>

〒466-8560

名古屋市昭和区鶴舞町65番地

名古屋大学医学部附属病院 消化器内科

研究代表者：渡辺 修

TEL: 052-741-2111